船岡山古墳３次調査　現地説明会資料

～全長 45mの前方後円墳を確認～

１調査区検出　前方後円墳の後円部

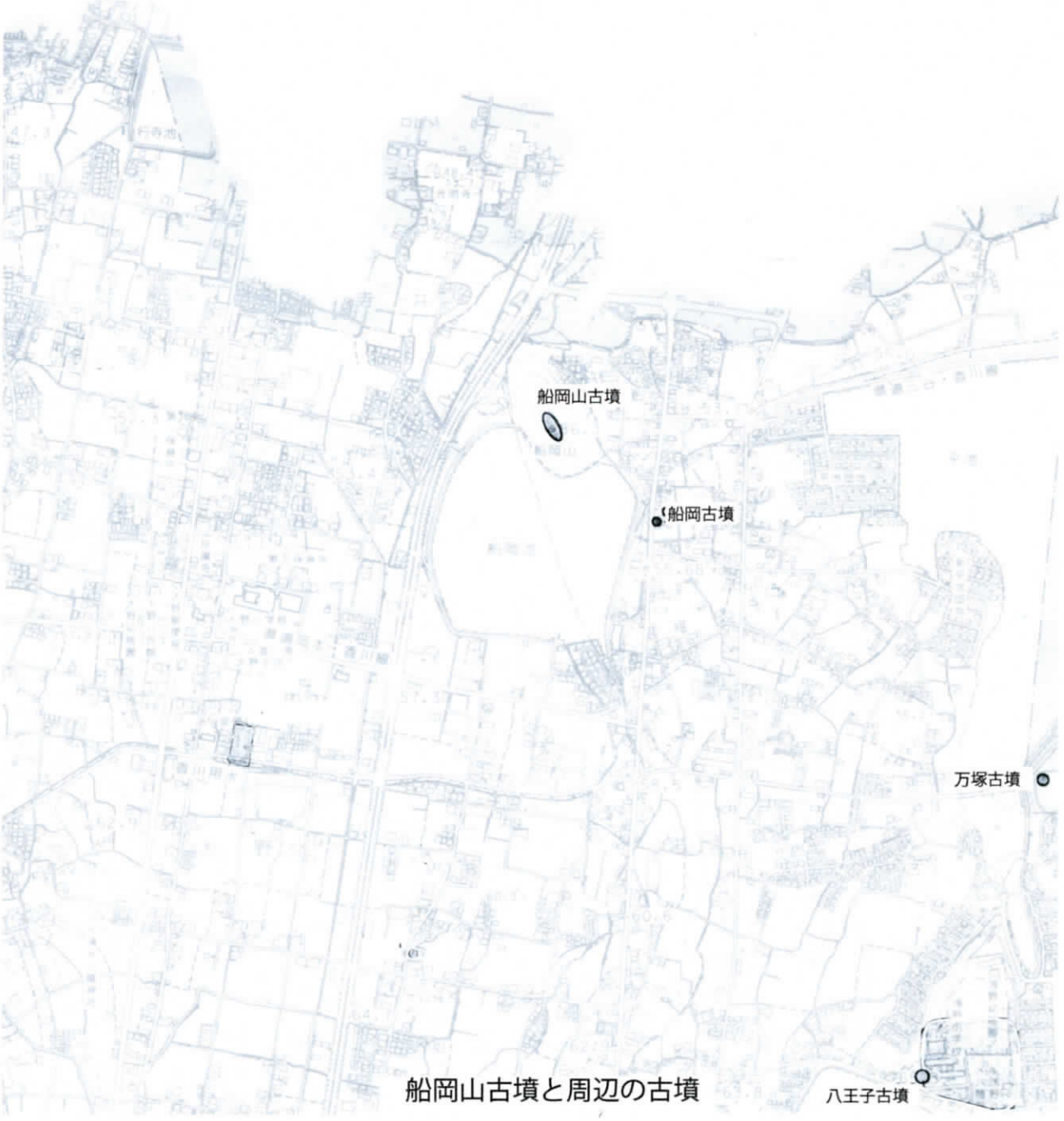
日時　　平成２１年９月２６日
所在　　高松市香川町浅野・大野（船岡山山頂）
調査主体　高松市教育委員会・徳島文理大学文化財学科

調査期間　平成２０年７月２２日～８月２１日（１次）
　　平成２１年２月２３日～３月９日（２次）
　　平成２１年８月１７日～９月４日（３次）

はじめに

船岡山古墳は，高松平野南部の島状を呈した独立丘陵である船岡山の山頂に造られた古墳です。過去の測量調査により，双方中円墳（円形の墳丘の両側に方形の墳丘がとりつく形の古墳）である可能性が高いとされてきました。また，浅野小学校に保管されている船岡山古墳出土と伝えられる石棺から，古墳時代前期後半，４世紀の後半ごろの古墳ではないかと推測されてきました。その一方で，讃岐金刀比羅宮に保管されている船岡山古墳出土と伝えられる土器片は，浅野小学校の石棺より時期的に古い特徴を示す資料が多く，謎の多い古墳でした。

なお、周辺には古墳時代後期（６世紀ごろ）の船岡古墳・万塚古墳などの古墳が存在します。



船岡山古墳と周辺の古墳

調査の成果

発掘調査の結果，従来船岡山古墳とよばれていた古墳は，前方後円墳１基と墳形が未確認の古墳１基の，あわせて２基の古墳であったことがわかりました。

ここからは，前方後円墳を１号墳，もう一基の古墳を２号墳と呼ぶことにします。

古墳の形と規模

◎１号墳

１調査区で古墳の端が弧を描くような形で築かれている状況を確認しました。また，内側と外側にそれぞれ一列ずつ，計２列の石積みによって古墳の端を造っていることがわかりました。この調査区で確認した石積みが，１号墳の北側の端になります。

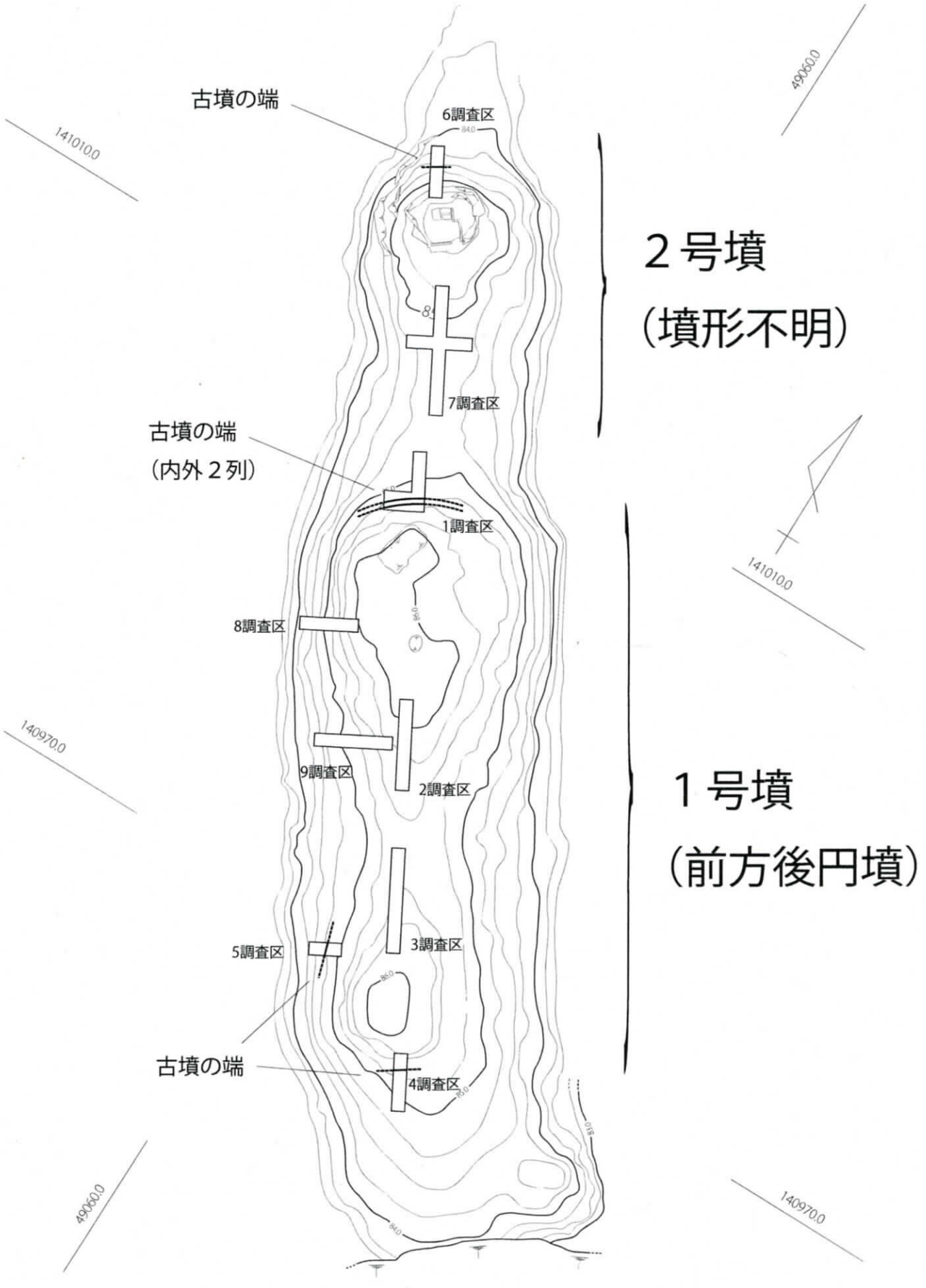
５調査区では，南西方向に向かって直線的に広がる形の古墳の端を確認しました。１号墳の前方部の側面に当たる部分であると考えられます。

４調査区では，東西方向に直線的にのびる古墳の端を確認しました。この調査区では１列の石積みを確認できました。１号墳の南側の端になると考えられます。

１調査区と４調査区，５調査区の調査結果から，１号墳の形が前方後円墳になることがわかりました。また，北の端と南の端がわかったことから，全長が約 45mになることも明らかになりました。

◎２号墳

６調査区で古墳の端を検出したことから，古墳であることがわかりましたが，大きさや形を推測する情報は得られませんでした。今後の調査により明らかにしていく予定です。


古墳の端
6調査区
2号墳
（墳形不明）
7調査区
古墳の端
（内外２列）
1調査区
8調査区
1号墳
（前方後円墳）
9調査区
2調査区
3調査区
5調査区
古墳の端
4調査区
1410100
490600
140970
0
20m

墳丘測量図

古墳の構造（つくりかた）

◎１号墳

１調査区で確認した内外２列の石積みの間には多量の土が入っており，石積みと石積みの間に土を詰めて，古墳の表面を覆っていたのではないかと推測できます。また，２・３・８調査区では，川原石を含む人頭大の石を粗く積み上げ，上を土で覆ったような状況が確認されています。このことから，粗い石積みに土をかぶせることにより，墳丘をつくったものと考えられます。

◎２号墳

６調査区の調査から，１号墳と同様に，石を積み上げて土で覆い，古墳を築造したことが観察できました。

調査区一覧表

調査区名	古墳	古墳の部位	検出した遺構	遺構の特徴
1調査区	1号墳	後円部北端	1号墳の北端	石を段状に積んだ遺構が内外に2列
2調査区	1号墳	後円部上	1号墳の後円部上面	石を粗く積み上げ、土で上を覆う
3調査区	1号墳	前方部上	1号墳の前方部上面	石を粗く積み上げ、土で上を覆う
4調査区	1号墳	前方部南端	1号墳の南端	岩盤を削って平らにし、段状に石を積む
5調査区	1号墳	前方部西側面	1号墳の前方部側面	岩盤を削って段を作り、板状の石を積上げる
6調査区	2号墳	古墳の北端	2号墳の北端	岩盤を削って段を作り、土で形を整える
7調査区	2号墳	？	石畳状の不明遺構	地盤を整えたのちに、石を積む
8調査区	1号墳	後円部西端	1号墳の後円部側面	石を用いた古墳の端がずれ落ちた状態
9調査区	1号墳	クビレ部？	1号墳の西側面	板石と拳大の円礫が集中する

出土した遺物

今回の調査では大きく分けて古墳時代と中世という，二つの時期の遺物が出土しています。中世の遺物は古墳が作られて1000年近くのちに，船岡山の山頂で何らかの人々の営みがあったことを物語る資料です。しかし，具体的にどのような営みがあったのかはわかりませんでした。

古墳時代の遺物としては，埴輪の破片が数多く見つかっています。もとの形を復元するには破片が小さく少ないですが，その小さな破片からも重要な情報を得ることができました。

船岡山古墳の埴輪には壺型埴輪と円筒埴輪があります。

壺型埴輪は文字通り壺の形をした埴輪です。全体を復元できる資料はありませんが，壺の底に大きな穴を開けている破片が見つかりました。口縁部の可能性がある破片もあります。

円筒埴輪は，筒形の埴輪です。こちらも全形はわかりませんが，壺を乗せるための台の形をした埴輪を起源とする，器台形埴輪であると考えられます。胴部には巴形（円に突起のついた，勾玉のような形）の「透かし孔」があけられており，さらにその周りに複雑な文様を刻んでいます。直線的な「透かし孔」の痕跡もみられることから，三角形ないし方形の「透かし孔」があったと推測できます。また，埴輪の周りを巡る「突帯」は断面形が三角形に近く，また高さがあることが特徴です。一部の埴輪には赤色の顔料が塗られていました。

出土量が少なく，まだまだ全体像がはっきりしない上に，類似した資料が少ない特徴的な埴輪であるため，これらの埴輪から古墳の時期を特定することは困難です。しかし，壺型埴輪と円筒埴輪を用いていること，巴形の透かし孔の周りに文様を刻むことなど，重要な特徴が明らかになりました。

埴輪の上端（口縁部）の破片

巴形の「透かし穴」と線刻をもつ埴輪片

「突帯」をもつ埴輪の破片

出土遺物写真

まとめ

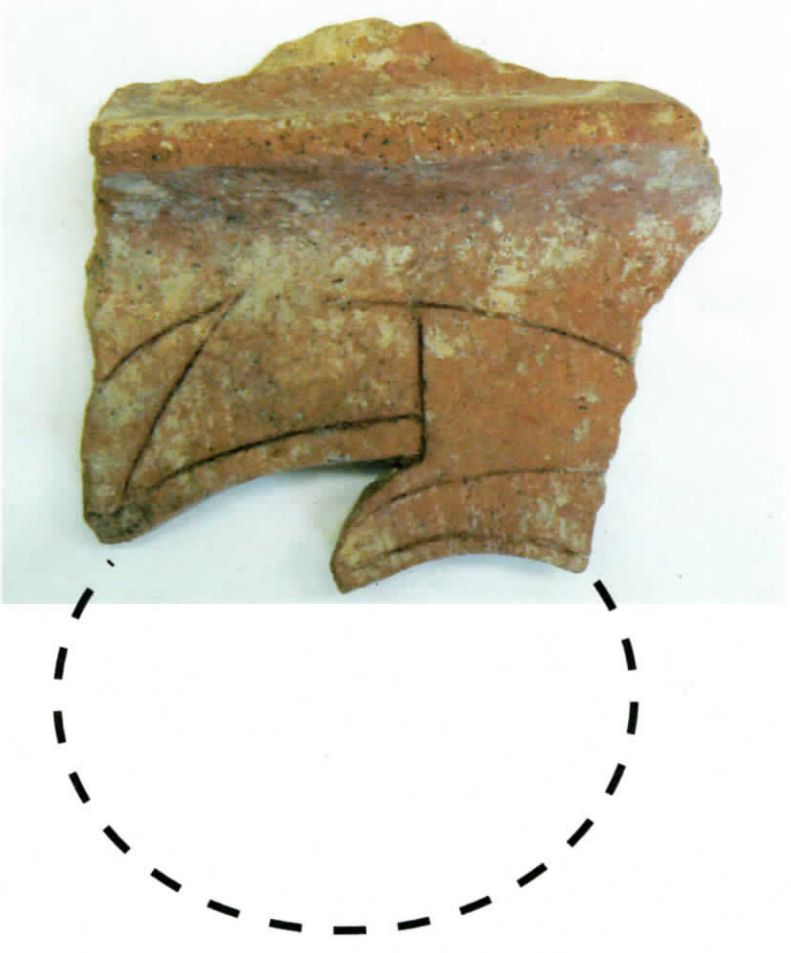
これまで謎の多かった船岡山古墳ですが，今回の調査の結果，１基の前方後円墳（全長約 45m）と墳形不明の古墳１基からなる古墳群であることがわかりました。

古墳の時期を推定するための材料は多くないですが，古墳の造り方や出土遺物の特徴を積極的に評価すると，古墳時代前期前半（３世紀中頃～４世紀前半）であると推定できます。

特に，石を粗く積み上げてその上を土で覆うという古墳の造り方は，他にあまり例の無いものです。そのため，高松平野北部に位置し，船岡山古墳と同じく古墳時代前期に属する石清尾山古墳群（高松市峰山町ほか）に多く見られ，香川県の地域性を表すとされる積石塚との関係が注目されます。

また，出土した埴輪の評価は未だ不確定な点が多いですが，先述の石清尾山古墳群中の鶴尾神社４号墳・猫塚古墳などから出土している埴輪とは明らかに異なる埴輪を用いています。このように，埴輪の様相から，ほぼ同時期の高松平野のなかでも，古墳により異なる埴輪が用いられていたことがわかりました。

今後，この古墳の内容をより明らかにし，この地域における古墳時代の社会像をより鮮明に描き出すために，調査を進めていく予定です。



船岡山古墳出土　巴形透かし孔と線刻をもつ埴輪片